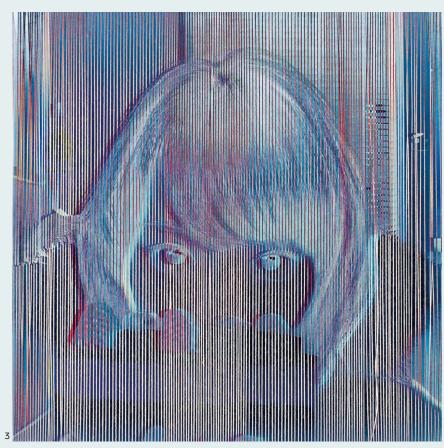
自意識と美意識人の顔に現れる





1 水戸部七絵の作品『FACE』は、油絵具を積み上げた彫刻のような絵画。2 会田誠の『ちび』は、プラスチックの弁当箱を用いた作品。3 清川あさみの作品は、幾重もの糸によって自身の顔が立体的に浮かび上がる『9月15日 Sep.15』。

アートコレクター・高橋龍太郎氏スペシャルインタビュー

"顔"が語るアート

誰にとっても身近なものである顔は、たくさんのアーティストが作品にしています。その顔の絵と 抽象画を並べると見えてくるものは? 数多くの"顔"の表現を見てきた高橋龍太郎さんに聞きました。

Interview&Text: NAOKO AONO

田象画はスペクトラム(帯状)に連なっているのではないか。そう考えなっているのではないか。そう考えなっているが開かれている清春芸術村展覧会が開かれている清春芸術村展覧会が開かれている清春芸術村のような場所。ゆっくりと時を過ごしたい展覧会です。

が残ります。ということは顔の絵と

と表現が抽象的になって美意識だけ

に に が多いのですが、その独特の緊張感が多いのですが、その独特の緊張感が多いのですが、その独特の緊張感が私たちの心を打つのです」 が私たちの心を打つのです」 のように思えますが、実はつながりのように思えますが、実はつながりのように思えますが、実はつながりがある、と高橋さんは言います。

「精神科医という仕事柄でしょう 関わるものをよく聴きますね」 身近なモチーフである顔の描き方 は時代によって違うのだそう。 は時代によって違うのだそう。 は時代によって違うのだそう。 は時代によって違うのだそう。 が多いのですが、その独特の緊張感 精神科医であり、現代美術のコレクターとして知られる高橋龍太郎さん。最近では同時代の作家だけでなく、近代の日本の画家たちにも目をられています。「清春芸術村」で開かれている展覧会は高橋さんと清春かれている展覧会は高橋さんと清春がれている展覧会は高橋さんと清春さんは「顔の絵が好きなんです」と言います。



Data

高橋コレクション 顔と抽象 -清春白樺美術館コレクションとともに

会期:2018年3月18日(日)~5月6日(日)まで 会場:清春芸術村内清春白樺美術館、光の美術館、 梅原龍三郎アトリエ

山梨県北杜市長坂町中丸2072 tel.0551-32-4865

⑤10時~17時 [入館は16時半まで]
⑥月曜 [ただし、祝日の場合は翌平日]
料金:¥1,500 (一般)



Profile

高橋龍太郎

Ryutaro Takahashi

1946年生まれ。精神科医。1997 年から日本の現代アートを中心に 収集を始め、草間彌生、荒木経惟、 奈良美智など主要な作家から若手 まで約三千点のコレクションを所 蔵。コレクションの展示や貸し出 しも積極的に行っています。